http://www.jaaso.or.jp/

JAあそだより

平成30年6月

■今号16ページ　主な内容

- 組合長「JA自己改革の先頭に！」
- 外国人実習生受け入れ農家をJAがサポート
- 生産各部会の生育・出荷・査定会・総会等の動き
- 「食べ物を作る難しさ、楽しさ学ぶ」青壮年部が食育活動etc.

今号も話題と情報を満載!!

2018 初夏

VOL.99

阿蘇農業協同組合

本所　〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111／FAX 0967-23-1088

棚田（高森町草部地区菅山）撮影＝田上幸納

「JA自己改革の先頭に」組合員（生産者）の生の声を！組合長自ら農家や圃場を訪問

原山寅雄組合長は5月中旬、組合員（生産者）や新規就農者の生産現場や圃場などへ日頃から営農経済渉外係として出向いているTAC職員に同行して、組合員の皆さんから直に意見を聴きました。

これはJAの自己改革に伴い、組合長自らが農家や圃場を直接訪問することにより、組合員の意見や要望、そして苦悩などを知り、今後のJAの在り方や将来の農業の展望を語り合うきっかけとなり、さらに地域社会との信頼関係の強化、ひいては農業者の経営向上にも繋がっていけば等の目的で行われました。

原山組合長は「組合員（農家）の作業現場を訪問すること、新規就農者にとって壁となっている農地取得や資金のことなど、営農指導員やTAC職員だけに巡回させるのではなく、組合長自身が先頭に立って直に農家・組合員の所へ出向くことで、少しでも農業経営向上に役立てばと願っている。また、役員室の扉は何時でも開放しているので、気軽に訪ねてもらいたい」と、特に若手農業者にこの意気込みを伝えたいと話していました。

組合長の突然の訪問に、アスパラ農家で農業師匠の室治夫さんは「新規就農者への配慮をもう少し検討してもらいたい。今回のように直接JAのトップと話せる機会を今後も増やしてもらいたい」と語り、畜産農家の竹原真理子さんは「JAの女性役員登用や職員も女性管理職を登用して、JA内に女性目線の新しい風を入れてもらいたい」と、今後のJA運営に要望を述べていました。（写真上＝いずれも生産者の方から意見を聴く原山組合長）

『農家になるという選択』祖母のアスパラガスを引き継ぐ新規就農者＝山口裕亮さん

JA阿蘇アスパラ部会の生産者である山口裕亮さん（30）は、平成29年4月からアスパラガス栽培を始めた新規就農者です。JA阿蘇のアスパラガス栽培は熊本県内の34％を占め、年間約750tを全国に出荷しています。この県内有数のアスパラガス産地で山口さんが「アスパラガスを栽培する」という選択をした背景には、祖母である山口ヒサカさん（82）の存在がありました。

山口さんは県外の大学を卒業後、祖母が住む阿蘇市で生活し、地元の団体職員として約5年間を勤めました。勤めている時も、休日など時間がある時は祖母の手伝いをしました。その間、山口さんは「この祖母が大事に育ててきたアスパラガス栽培を引き継ぐのは自分しかいない」と思い、就農することを決心しました。昨年までは栽培面積10aでしたが、2017年度生産総合対策事業により低コスト耐候性ハウスを19・2aを導入しました。真新しいハウスで本当のスタートとなる苗を1本1本定植した山口さんは「高品質の美味しいアスパラガスを作り、阿蘇のアスパラガスを食べた方が幸せを実感できるようにしたい」と、力強く抱負を語っていました。

（写真上＝定植後の苗の生育状況を確認する山口さん）

外国人技能実習生が組合員の生産拡大 受入農家・実習生をJAがサポート

農家の生産拡大や人材確保に外国人技能実習生受入事業が一翼を担っています。JA阿蘇では平成18年4月から当事業を実施しており、現在はカンボジア、中国からの実習生67人を28農家が受け入れています。

特に、昨今の農業離れによる人材不足などで経営を安定して維持していくことには様々な課題があり、当事業により規模拡大はもちろん、生産量や所得向上にも繋がり、耕作放棄地の減少にも役立つと期待されています。

ミニトマト農家の興梠修さんは、現在は1人の技

※次ページに続く

※前ページより続く

能実習生を受け入れています。

興梠さんは「慣れない土地でとても頑張ってくれている。実習生のおかげで今まで以上に経営が円滑化している。生活面や指導面でもＪＡがしっかりサポートしてくれるので安心」と、大きな信頼を寄せています。

ＪＡでは3年間の技能実習期間中での語学研修や生活指導をはじめ、受入農家とのパイプ役として事業が円滑に回るよう現地からの通訳を臨時職員としても採用しています。

また、受け入れた技能実習生が帰国後、アジア地域の経済発展を担う人材となれるよう更なる育成の充実に力を入れています。

写真上＝実習生（右）と一緒に作業する興梠夫妻（写真奥）と作業を見守る通訳のサムさん（左）／写真下＝キャベツの収穫作業を行う阿南さん（左）と2人の実習生

小国郷「きゅうり」「大根」両部会 合同で出荷進発式を開催 セット販売で有利販売を目指す

小国郷きゅうり部会と同大根部会は4月10日、ＪＡ熊本経済連で各部会役員・取引先青果市場・ＪＡ熊本経済連・ＪＡ阿蘇の関係者ら約30人が参加し「ＪＡ阿蘇小国郷きゅうり部会・大根部会合同出荷進発式」を開きました。原山組合長は挨拶で「生産者の方々は技術・知識は十分持っているので、今後は農業所得増大に向けお互いに切磋琢磨して、情報・特販を利用したセット販売で有利販売をしてほしい。今後ともＪＡ阿蘇全体で進発式、セット販売を行っていきたい」と決意を語りました。

きゅうり部会は生産者57戸で、福岡・鹿児島県を中心に年間目標15万ケース、売上金額約2億5000万円、大根部会は生産者20戸で、福岡県を中心に年間目標30万ケース、売上金額約2億6000万を目標に12月まで出荷を行う予定です。（写真＝挨拶をする原山組合長）

小国郷JA-SSに洗車場オープン！

平成30年４月20日、小国郷ＪＡ-ＳＳ洗車場がオープンしました。
当日は午前９時からオープンセレモニーが開かれ、組合長をはじめ多くの関係者の下、テープカットが行われました。洗車メニューとして、水洗い洗車からワックス洗車まで多岐に渡るメニューが、お手頃な価格で提供されています。また、プリカカードにより2,000円で2,500円分の洗車ポイントがついて、さらにそれぞれのメニューが100円引きと、とてもお得です。皆様のご来場を心よりお待ちしています。

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き①

小国郷全体で水稲面積約500ha 5月中旬、田植えピークを迎える

ＪＡ阿蘇小国郷では5月上旬より田植えが始まり、中旬にはピークを迎えました。小国郷には水稲面積が全体で約５００haあり、あきげしき8割、ヒノヒカリ1割、その他が1割の作付けとなっています。

５月４日、宇都宮敏さん宅を訪ねるとゴールデンウィークで帰省した娘・息子・孫ら家族総出で2日間にわたって田植えを行っていました。宇都宮さんは、あきげしきとヒノヒカリ2種類の苗代準備を3月末から行い、約３００枚（1丁1反分）の苗代を作り、田植え当日まで大切に育ててきました。

宇都宮さんは「苗が病害虫やネズミに狙われないように気を付けてきた。今後も気を緩めず病害虫や動物の被害に遭わないように努力したい。また、昨年の出来は全体的に良かったので今年も昨年以上に良い成績を残したい」と抱負を語っていました。

ＪＡ指導係の宮崎智和職員は「今年は現在（取材時）のところ順調に生育している。これから先、梅雨で長雨が続くと病気で生育不良が懸念されるため、早めの防除対策等が必要になってくるので、早い時期から指導に努めたい」と語っていました。（写真＝田植えをする宇都宮敏さん）

11月中旬まで約450tを出荷予定 高冷地キャベツの定植が最盛期

ＪＡ阿蘇南部営農センター管内では、２０１８年産キャベツの定植が3月中旬より始まり、定植作業は8月中旬頃まで段階的に行われます。

南部キャベツ部会の奈須正美部会長は「朝晩の冷え込みなどにより、苗の生育を心配したが例年に負けない苗姿となった。今年も生産者一丸となって品質にこだわり、安全安心な品物を消費地に供給していきたい」と意気込みを語っていました。

２０１８年産については「みくに」「初恋」など5品種を順次、定植していく計画です。指導販売係の甲斐亮太職員は「天候不順による病気発生などが心配されるため、早めの予防を呼びかけていきたい」と話しています。

２０１８年産の生産概況は生産者５人（前年同）、作付面積15ha（同１１５％）で、11月中旬までに約４５０ｔの出荷を計画しています。（写真＝定植作業をする奈須部会長）

小国郷きゅうり11月まで出荷 販売目標額2億5000万円

県内有数の産地である小国郷できゅうりの出荷が4月25日より始まりました。初日は1戸だけの出荷でしたが、日を増すごとに増え現在（5月1日取材時）5戸の農家が出荷を行っています。小国郷は夏秋きゅうりの産地ですが、この時期はハウス栽培からのスタートとなっています。現在、出荷されているきゅうりは、3月下旬に定植したものです。

小国郷きゅうり部会員の穴井康雄さんは「3月25日に定植したが、まだ寒い時期だったのでハウスに2重のトンネルをして寒に当たらないように注意をした。今後は本切りでツルが伸びるため選定作業と出荷選別が一緒になるので忙しくなる」と話していました。

きゅうり販売担当の波多野勝郎職員は「小国郷のきゅうりは、色が濃く、イボが取れていないのが良いと市場や消費者からの声が上がっている。販売単価は昨年とほぼ変わらないが悪くはない。これから6月下旬のピークに向けて昨年より少しでも高い販売単価を目指したい」と意気込みを語っていました。

同きゅうり部会は生産者57戸で福岡・鹿児島県を中心に年間15万ケース、販売金額2億5000万円を目標に11月まで出荷を行う予定です。

（写真右上＝きゅうりの収穫作業をする生産者の穴井さん夫妻）

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き②

4月下旬、春大根の出荷始まる ＝小国郷大根部会＝

県内有数の大根産地である小国郷では春大根の出荷が4月26日より始まりました。初日は大根部会の2戸が出荷、約5tを福岡へ出荷しました。

昨年と出荷時期はほぼ変わりませんが、市場価格（取材時）は平年と比べると低調に推移しており、本格的に大根が出揃う5月中旬頃には平年並みの価格に戻ってほしいと、販売担当の波多野勝郎職員は話していました。

生産者の佐藤隆さんは「4月上旬に寒波到来があり抽苔が心配されたが、収穫すると品質良好だった」と話していました。（写真右＝出荷選別作業をする佐藤さんら生産者）

夏秋ミニトマト 5月下旬頃から出荷開始 ＝中部ミニトマト部会＝

1株1株丁寧な作業が行われる定植の様子

JA阿蘇中部管内では2018年産夏秋ミニトマトの定植が4月中旬頃から始まりました。

中部ミニトマト部会員の宮下邦夫さんは、当日サカタ種苗のキャロルスター約2000株を定植しました。

宮下さんは「本年は低温の日が多く育苗に気遣う日々が続いた。予定通りに定植が出来きたので、例年以上に収量品質向上を目指したい」と抱負を語っていました。

中部ミニトマト部会は、計画生産面積3.2ha（実績比110%）、計画重量170t（同107%）、部会員数18人（前年同）となっています。

出荷開始の時期は5月下旬頃を予定しており、営農部園芸課指導係の笹原祥樹職員は「行政や関係機関との連携をしっかり行い、講習会・勉強会を定期的に開催し、梅雨期以降の栽培管理に重点を置き、潤沢な出荷が出来るシーズンにしたい」と意気込みを語っていました。

市場高評価の野尻地区「デルフィニウム」 花卉の先陣を切って出荷

野尻地区ではデルフィニウムの出荷が4月下旬頃から始まりました。同地区では数多くの花卉が生産されており、このデルフィニウムが先陣を切っての出荷となり、新年度の始まりを市場に知らせる品目ともなっています。

野尻地区のデルフィニウム栽培面積は30aで生産者は2人。生産者の白石豊和さんのハウスでは、週3回の収穫作業を行っています。

白石さんは「梅雨時期の花落ち対策が一番の課題」と話し、梅雨時期の栽培管理を毎年見直し、改善してきました。その結果、出荷市場の評価は年々高まり、現在ではデルフィニウム出荷の重要な産地となっています。

市場担当者は「夏場の貴重な産地として位置付けしており、今後も更なる発展が期待できる産地である」と期待をしています。

白石さんは昨年まで購入苗を定植していましたが、今季から自家育苗することでコスト面を抑える経営に取り組んでいます。播種時期が9月ということもあり、高温による発芽不良もあるため冷蔵施設を使用して、芽だし等の育苗作業を行っています。

「課題は多いが、手元に残る収入を増やすためには自家育苗は有効」と白石さん。出荷は11月中旬まで続き、最終的には8万本の出荷を予定しています。

（写真＝生育状態を確認する生産者と担当職員／4月25日撮影）

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き③

スナップえんどう出始め良好
夏秋品目と連携し 所得増を図る

ＪＡ阿蘇南部地区では２０１８年産スナップえんどうの出荷が５月上旬から始まっており、生育・出荷量ともに順調な出始めとなっています。

スナップえんどうの作付けは農家所得の向上を図ろうと２０１５年から本格的に始まり、夏秋以外の期間での安定収入確保に成果を上げています。

南部地区は県内有数の夏秋産地であり、夏秋品目の出荷開始となる６月上旬までは収入が見込めませんでしたが、スナップえんどうは６月下旬まで収穫できることから、収入が見込める品目として期待されています。

生産者の後藤隼弥さんは「播種後の寒さで生育の遅れを心配したが、その影響も少なく生育は良い」と話しており、スナップえんどうの後作としてはミニトマトを作付け予定です。

出荷先としては、県内を中心に今後は九州各地へ出荷されます。２０１８年産の同地区栽培概要は生産者14人、作付面積14haとなっています。（写真上＝収穫作業をする後藤さん／５月17日撮影）

蘇陽地区のピーマン 5月中旬、定植ピークに

ＪＡ阿蘇ピーマン部会は４月11日、蘇陽地区で２０１８年産の共同育苗を始めました。当日、共同育苗をする生産者ら約20人が購入セル苗を鉢上げしました。同部会はハウス栽培主体の高森地区と露地栽培主体の蘇陽地区で構成されており、品種の集約や販売数量の確保によって有利販売を展開しています。

ピーマン部会の作付け品種は、ハウス栽培では「京まつり」、露地栽培では「さらら」が主力品種となっており、当日は露地栽培の「さらら」約２万３０００本の鉢上げが部会員の手によって行われました。

蘇陽地区は過去に定植直後に晩霜の被害を受けたこともあり、昨年より時季に合わせ育苗作業を行っています。

担当の上田裕樹職員も「育苗中の温度管理が苗の出来具合に大きく影響するため、天候に合わせた細かい管理を心掛けていきたい」と話していました。

部会では作付け前の土壌分析により必要な施肥量を算出し、無駄のない低コスト栽培を実践し、ハウス栽培では３年前より導入している天敵昆虫「スワルスキー」導入による防除体系に取り組んでいます。定植作業は５月中旬の最盛期を迎えました。（写真上＝鉢上げ作業をする生産者）

ピーマン苗生育良好

ＪＡ阿蘇蘇陽育苗施設では４月上旬鉢上げした共同育苗のピーマン苗が順調に生育し、生産者への苗配布を前に担当職員が生育状況を確認しました。

今年は鉢上げ作業後の朝晩の冷え込みや日中の高温等があり、苗質が心配されましたが目標とする苗に仕上がりました。ピーマン栽培のハウス栽培では「アザミウマ類」、露地栽培では「炭そ病」の被害が深刻化しており、２年前より購入苗の使用及び天敵昆虫による防除体系、圃場環境整備などを見直し、産地一体となって病害虫対策に取り組んでいます。

指導販売係の上田裕樹職員は「寒暖の差が大きく温度管理が難しかったが、最終的には根張りも良い苗に仕上がった」と話していました。

（写真＝生育状況を確認する担当職員）

小国郷生しいたけ部会 出荷査定会
小国から「おいしいたけ」を！

小国郷生しいたけ部会は５月８日、２０１８年産出荷査定会を小国郷中央支所で開き、生産者ら関係者約40人が出席しました。同部会は周年を通して原木での栽培を行っており、九州では同部会は大分県九重町・玖珠町と並び希少産地となっています。

査定会では夏菌（生しいたけ）の本格的出荷を前に、出荷規格や出荷要領等の確認を行いました。

※次ページに続く

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き④

※前ページより続く

松野英一部会長は査定会冒頭で「年々部会員が減っていく中で、昨年は思うように収穫できず厳しい年なったが、今年は部会員が一体となって目標数量に向けて頑張りましょう」と力強く挨拶を行いました。本年は春先まで寒い日と暖かい日が交互に続き、雨も適度に降ったため収量が良い結果となりました。

同部会は20年程前から福岡市の小学校を対象に、食育として原木しいたけの駒打ちや収穫体験などの栽培体験交流を町の助成金を受けて続けており、今後は地元小学校でも交流会の開催を計画しています。

査定会に出席した小国郷生しいたけ生産者の皆さん

販売担当の木下翔太職員は「今年は雪の影響で駒打ち作業が遅れている生産者がいるが、生産者の皆さんのお陰で、春先の出荷量は昨年を上回っている。この調子で夏、秋と出荷して頂きたい。また生産者ごとの品質の格差をなくしていきたい」と熱く語っていました。同部会では、8月に部会員を対象に菌の活着調査と栽培講習会、さらに個々の選別強化対策としてパック詰め講習会を開催予定です。

本年度は生産者27戸で福岡県を中心に出荷を行い、出荷量45万パック（1パック100g）、販売高5000万円を目標にしています。

ブルーベリー部会総会 新種「ピンクレモネード」出荷と更なる周知と販路拡大を

ブルーベリー部会は5月10日、山都町で2017年度の総会を開き、生産者ら関係者約40人が出席しました。

総会冒頭に、杉本勇一部会長が「新たな取り組みとして、2018年度よりピンクレモネードの出荷を考えている。また、蘇陽ブルーベリーの周知と販路拡大にも力を入れていきたい」と決意を述べました。総会では2017年度事業報告等4議案が承認・可決されました。

同地区のブルーベリー栽培は約30年前より始まりました。その背景には農産物の収入源が減る6月から9月の収入源を確保したいという生産者の要望から導入され、現在では県内でも有数の産地となっています。

白水メロン部会の数量・期間限定「場外ホームランメロン」生育良好

白水地区では春の暖かい陽射しの下で「阿蘇メロン」が順調に生育（5月初旬取材時）しており、5月中旬から県内外への出荷が予定されています。

その中でも人気の高い数量・期間限定の「場外ホームランメロン」は5月上旬から販売の受付を始めています。

この「場外ホームランメロン」は、白水メロン部会が約10年前より規格外品を有利販売するために取り組んでいる出荷規格です。栽培の仕方も通常とは異なり、1株に6個着果するのを3個に制限し、大玉で甘い高品質のメロンとして栽培・販売しています。そのため年々固定客も増え、贈答用としても需要が多く、遠くは北海道まで送られています。

下田盛久部会長は「今年は例年になく生育が進んでおり、玉肥大も良好」と話しており、販売担当の後藤辰徳職員も「今年も安全安心なメロンを届け、その場外級の味をぜひ堪能してほしい」と話していました。

部会では生産者ごとの写真を撮影して、出荷時に自分で作ったメロンと一緒に紹介文も添えて消費者へ届けるようにしています。（写真右＝「場外ホームランメロン」の生育状況を確認する職員／5月1日撮影）

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き⑤

野尻地区のヒマワリ 11月上旬まで段階的に出荷

野尻地区では5月中旬からヒマワリの出荷が始まりました。週3回の集荷日には生産者が野尻集荷場に持ち込む姿が見られています。

生産者の草村征憲さんのハウスでは、4月上旬に播種したものが出荷を迎えています。今年は4月下旬からの気温上昇により出荷時期が7日程度早まり、目立った病害虫の被害もなく品質は良好です。栽培品種はサンリッチオレンジなど同地区では他に5品種栽培されています。

野尻地区のヒマワリは市場評価も高く、市場担当者は「軸がしっかりしており、他産地に負けない品質」と太鼓判を押し、高単価での販売となっています。ヒマワリの需要は年々高まっており、用途は幅広く冠婚葬祭いずれでも使用されています。栽培期間も45日と短いため短期間で収入が上げられることも大きなメリットとなっています。

同地区のヒマワリは11月上旬まで約10万本が段階的に出荷される予定です。（写真上＝出荷前の生育状況を確認するJA担当職員／5月23日撮影）

西原かんしょ定植順調 苗床専用肥料で良質の苗

西原かんしょ部会では2018年産かんしょの定植が（取材時）順調に進んでいます。2年前の熊本地震による圃場の被害も復旧が進み、畑では生産者が苗を1本1本差し込んでいく姿が見られています。

西原地区では5年ほど前から貯蔵性や市場評価などを検討しながら品種を絞り込み、4年前より「シルクスイート」を中心に作付けしています。

出荷市場からは「食味、形状ともに揃っており、数多くある産地の中でも西原かんしょの期待度は高い」と評価を受けています。部会では「女性にもスイーツ感覚で食べてもらえる甘さ」というキャッチコピーで消費地での販売強化を目指しています。また今年より苗床専用肥料の試験を実施し、良質の苗づくりへの取り組みが始まっています。

指導販売係の鞭馬直輝職員は「震災より2年が経過したが、震災時に全国各地から応援して頂いた気持ちを忘れずに、安全安心な品物を出荷していくことで阿蘇の元気を届けていきたい」と語っていました。

2018年作付概況は面積80ha（前年同）、生産者60人（同）となっています。（写真＝定植作業をする野田部会長）

白水地区のトルコギキョウ 6月下旬～7月定植ピーク

白水地区では2018年産トルコギキョウの定植が順調に進んでおり、生産者のハウスでは自家育苗された苗を1つ1つ植え付ける姿が見られています。定植のピークは6月下旬から7月で、8月上旬まで作業が行われます。

取材時、定植作業をしていた島田和幸部会長は「苗の出来は例年以上に良い。今後の生育に期待したい」と話していました。同地区のトルコギキョウは、草丈・輪数とも十分にあり、他産地よりも品質が良いとされており、夏場の産地としては県内でも有数の産地となっています。

指導販売係の有馬弘人職員は「現地巡回を重点的に行い、安定した品質のものを市場に届けていきたい」と話していました。今年は新規就農者による作付けもあり、産地としての生産力向上にも力を入れていく計画です。

2018年産の白水地区トルコギキョウ作付面積は2.7ha（前年比108%）、生産者10人（同）。（写真左＝定植作業をする生産者）

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き⑥

生産者ら病害虫対策講習会を開く
＝小国郷ほうれんそう部会＝

小国郷ほうれんそう部会は5月22日、被害の増加傾向にある「ホウレンソウケナガコナダニ」防除についての講習会を開き、今後発生が懸念される病害虫についての防除・消毒対策等の講習も行われました。

講習会には部会員41戸と県職員や種苗会社も参加し、これから播種する品種の栽培管理や特性の説明も合せて行われました。

コナダニ（ホウレンソウケナガコナダニ）は、土壌表面から5㎝までの浅い所に生息し、乾燥を嫌うため収穫前に灌水を控えると土壌から離脱し、水分を求めほうれんそうの新芽や葉先に被害をもたらします。そのため被害発生後の防除では手遅れとなり、発生前の防除が必要と言われています。

ほうれんそう部会の時松達也部会長は「私もコナダニの被害を減らすことが出来た。これから私が行っている対策や事例をいくつか話すので皆さんも試してほしい」と、部会員に実例を報告しました。

指導担当の大塚孝政職員は「本日勉強したことを出来る範囲で少しでも病害虫の発生を減らし、収量・品質アップにつなげて出荷してほしい」と話していました。

（写真＝病害虫対策講習会の様子）

小国郷お茶
5月中～下旬出荷最盛期に
収量は例年の8割か…

小国郷地区でお茶葉の荷受けが5月15日から始まり、26日には一番茶の最盛期を迎えました。

主な品種は「やぶきた」で、昨年の収量は全体で22ｔでしたが、今年は18ｔが目標で前年の8割程度となっています。その原因として生産者の高齢化もありますが、一番の原因は4月の寒が激しく雪が降り、また霜で葉が痛んだことで収量が減ったことです。

指導担当の高野雄哉職員は「適期に収穫を行い、品質低下の防止に努めてほしい。軸がたくさん入っていると消費者が嫌うので、品質管理に心がけてほしい」と呼びかけていました。

荷受けしたお茶葉は、その日のうちに機械で蒸して揉んで乾燥までの処理をしています。毎年6月下旬、新茶の販売を小国町の朝どり市等で行っていますが、その際は粉茶の販売も行っており、数量が限られ稀少なため、販売当日は早朝から長蛇の列が出来ています。

（写真＝品質を確認する担当職員）

特産「ヒゴムラサキ」
5月中旬より県内中心と
関東・関西大都市圏に出荷

定植をする生産者（4月23日撮影）

南部なす部会では2018年産「ヒゴムラサキ」の定植が4月中旬頃、最盛期を迎え生産者は作業（取材時）に追われています。

この「ヒゴムラサキ」は10年以上前に高森地区の特産品として導入され、特徴として果肉が大変やわらかく、果物のようにそのまま食べることができます。調理しても他の野菜類に紫色が移らず、調理しやすい茄子として、年々市場や消費地の評価が高く、東京などの大都市圏での販売にも取り組んでいるため知名度も上がってきています。

※次ページに続く

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの動き⑦

※前ページより続く

指導販売係の後藤真智職員は「定植後の管理が、その後の生育に大きく影響するため、定植時における根回し水の徹底等を呼び掛けていきたい」と、定植後の栽培管理に重点を置くように話しています。

同部会では天敵昆虫を取り入れた防除体系の確立を目指しており、昨年に引き続いて天敵昆虫を中心とした防除ローテーションを組む予定です。2018年産の作付け面積は7.7ha（前年比96％）、生産者16名。出荷は5月中旬より開始され、県内を中心に関東・関西地区の大都市圏に出荷予定です。

脇芽かき作業をする生産者（5月9日撮影）

夏秋トマト出荷最盛期は6月下旬頃 ＝JA阿蘇中部管内＝

出荷を待つたわわに実ったトマト（5月25日撮影）

JA阿蘇中部管内では2018年産夏秋トマトの収穫が始まりました。

本年度は平年に比べ日照量は多かったものの低温で推移したため、低段果房では小玉傾向ですが秀品率は高い傾向にあります。

5月下旬、先陣を切って収穫を開始した中部トマト部会員の甲斐照雄さんは約20a分の収穫を行いました。

甲斐さんは「定植後の初期低温の日が例年になく多い日が続き、生育の心配をしたが待ちに待った収穫ができて大変嬉しい。今後も気候に注意しながら、例年以上に収量品質向上を目指したい」と、収穫の喜びを語っていました。

本年度、中部トマト部会では生産面積38ha（前年比96％）、計画出荷量約4,000t（同）、部会員数145人（同97％）となっており、出荷最盛期は6月下旬頃となる予定です。

営農部園芸課指導係の宮崎大智職員は「初期草勢管理のコントロールをしっかり観察し、高温期の草勢低下を出来るだけ回避させ、高品質なトマト生産指導に取り組みたい」と意気込みを語っていました。

選果は中部野菜センターで行われており、出荷は九州管内中心に行われます。（写真左＝収穫を行う甲斐さん）

組合員資格確認について

当JAに届け出て頂いている内容（氏名、住所、組合員たる資格の別等）
に変更があった場合には、
JA阿蘇本所 総務部総務人事課（TEL0967-22-6111）
迄ご連絡ください。

「食べ物を作る難しさ、楽しさ学ぶ」青壮年部盟友ら小学生と食育活動

「自らの手で育て、感じる食べ物の大切さ」を学ぶ 青壮年部高森支部の取り組み

青壮年部高森支部の盟友は4月27日、高森中央小学校の5年生45人と一緒に食育活動の一つとして「もち米（峰の雪）」の種まき作業をしました。

この活動は、自らの手で作物を育てることで「どのようにして作物ができるのかを経験し、食べ物を作る難しさ、楽しさを知ってほしい」と同支部が企画、今年で10年目を迎える取り組みです。

当日は同支部の盟友らが子供たちに種まきの方法などを教え、作業の手伝いをしました。自分たちの手で育苗箱に土を入れ、種まきをする子供たちの目は輝いており、秋の収穫を今から楽しみにしている様子でした。

作業をした子供たちからは「自分達が種まきをしたので、生長していく姿を観察できるのが楽しみです」などの感想が聞かれました。

高森支部事務局の岩下悟職員は「自分たちで育てることで、食べ物のありがたみを知ってほしい」と話していました。この日に播種した苗は5月中下旬に田植えを予定しています。

また、同支部では1年前より「みさを大豆」（大正10年、同町草部地区の井上みさをさんが発見した大豆）による豆腐作りにも取り組んでおり、様々な活動を通して、子供たちが食べ物の大切さや先人の偉業に触れる食育活動を実践しています。

（写真左＝種まき作業をする子供たち）

秋の収穫を楽しみに 「スクスク育った苗を手植え」 高森中央小5年生45人

青壮年部高森支部は5月21日、食育活動の一つとして高森中央小5年生45人と一緒に「もち米（峰の雪）」の苗を手作業で田植えしました。

この苗は先月、子供たちが播種したもので、苗は天候にも恵まれスクスクと育っていました。

当日は同支部の盟友ら10人が子供たちに手作業による田植えの方法などを教え、作業の手伝いをしました。そして10aの水田に自分たちが育てた苗を植え付けました。

田植えした子供たちは「初めての手植えは楽しかったし、秋の収穫が今から楽しみです」と話していました。

支部事務局の岩下悟職員は「手植えをすることで、直に土の感触や作物を育てる大変さを感じ取ってほしい」と話していました。

作業の前に水田周りに生息する生き物の話を聞いた子供たちは、苗を植える合い間に生き物を見つけはしゃいでいました。

（写真左＝手植えをする子供たち）

「バケツ稲」「ミニトマト苗植え」青壮年部盟友ら小学生と食育活動

「バケツ稲で生長過程を観察」青壮年部長陽支部＋南阿蘇西小

JA阿蘇青壮年部長陽支部は5月28日、南阿蘇西小学校4年生20人とバケツ稲作りをしました。

この活動は自らの手で作物を育てることで、どのようにして作物ができるのかを経験し、食べ物を作る難しさと楽しさを学んでほしいと青壮年部長陽支部が企画したもので、今年で5年目の取り組みとなります。

当日は盟友ら8人が子供たちのバケツ稲作りを手伝いました。バケツに土と水を入れた後、ドロドロになった土の感触を確かめながら、土をこねて、「ヒノヒカリ」の苗を植えました。

体験した子供たちからは「秋の収穫が楽しみ」とか「ドロドロの土が気持ち良かった」などの感想が聞かれていました。

支部事務局の市原透職員は「自分たちで育てることで、食べ物のありがたみを知ってほしい」と話していました。

今後はバケツ稲の生育観察をしながら10月末に収穫して、実ったお米の食味体験をする予定です。

一の宮小2年生にミニトマト苗植えを指導 青壮年部一の宮支部

青壮年部一の宮支部は5月17日、阿蘇市立一の宮小学校2年生80人にミニトマトの苗植え指導をしました。

同小学校でも食育学習「ミニトマトものがたり」として毎年ミニトマトの栽培しており、毎年、一の宮支部の盟友が食農教育の一環として指導をしています。

当日は最初に同支部の園芸専門盟友より、ミニトマトの生育過程や実の着き方等の内容説明が行われました。子供たちは「美味しくなる植え方を教えて下さい」とか「トマトとミニトマトの違いを教えて下さい」等の質問をしたりして、好奇心がいっぱいの様子でした。

苗植えの作業になると、子供たちは真剣な表情で苗を盟友から受け取り、苗を傷めないように扱いながら、個々のプランターに定植をし、苗元にたっぷりと潅水をして無事にミニトマト苗植えが終了しました。

子供たちは「忙しい中、指導して頂きありがとうございました」とか「早くミニトマトが食べられるよう頑張って水やりや肥料を上げます」と、感想をもらしていました。

収穫期は7月中旬頃を予定しており、それまで同支部盟友が定期的に観察を行なう予定です。（写真＝盟友から苗植え方法の話を聞いた後、みんな楽しそうに一生懸命になって苗植えをする子供たち）

2018年度推進目標を確認「JA阿蘇全体職員事業推進大会」

JA阿蘇は2018年度事業目標の達成に向け5月19日、全体職員事業推進大会を阿蘇市で開き、役職員ら332人が参加しました。

始めに原山寅雄組合長は「2019年度からの会計監査人監査への移行に向け、内部統制の拡充が必要である。また2018年度の目標達成に向け、職員一人一人が目標を掲げ、役職員一丸となって努力しよう」と決意を述べました。

2018年度の事業計画・推進目標については「①地域農業の振興・地域農業戦略の実践。②地域くらし活動の実践。③地域特性に応じた支所ごとの推進戦略の策定。④JAバンク自己改革に向けた取り組みの強化と地域に信頼される金融事業の実践。⑤地域になくてはならないJAとしての評価を得るための購買事業の実践。⑥自己改革の実践と収支改善による経営基盤強化。⑦不祥事未然防止の徹底と内部監査機能の強化」の7項目を基本方針に、事業活動を展開していくことを確認しました。また、当日は全国健康保険協会熊本支部により『今日から始めよう小さな一歩』と題して、講演が行われました。(写真はいずれもJA阿蘇全体職員事業推進大会及び講演会のひとコマ)

厚生連からのお知らせ『関節リウマチ』

①関節リウマチとは？

関節リウマチとは、関節が炎症を起こし、軟骨や骨が破壊されて関節の機能が損なわれ、放っておくと関節が変形してしまう病気です。腫れや激しい痛みを伴い、関節を動かさなくても痛みを生じるのが、他の関節の病気と異なる点です。手足の関節で起こりやすく、左右の関節で同時に症状が生じやすいことも特徴です。

②30～50歳代の女性の方は要注意

日本のリウマチ患者数は、100万人とも言われていますが、関節リウマチが発症するピーク年齢は30～50歳代で、男性よりも女性の方が多く発症します。また、60歳以降に発症する方も少なくありません。

③関節リウマチの症状

関節リウマチの初期症状は、関節の炎症に伴う『手足の違和感』、『腫れと痛み』、『発熱』などです。さらに、病気が進行すると関節の軟骨や骨が破壊され、関節の脱臼や変形を生じるようになります。

④早期発見、早期治療が大切

関節リウマチは、症状がゆっくりと進行すると考えられていましたが、実は、発症後、急速に関節破壊が起こることが分かってきました。つまり、早期に発見して早期に治療することがとても大切な病気です。しかし「関節リウマチ」と病気を確定する診断は意外と難しいため、リウマチ専門医へ相談する必要がありますので、自覚症状がある方は早めに専門医を受診しましょう。また、厚生連にて実施をしている、人間ドックの血液検査で、リウマチ因子や炎症反応といったリウマチのスクリーニング検査も行っておりますので、気になる方はご相談ください。

「JA阿蘇きらり★」

所属部署＝阿蘇町中央支所購買課購買係
グリーンショップやまびこ

深山（ふかやま）　卓実（たくみ）

★趣味＝音楽鑑賞
★一言コメント＝入組して8年目になります。地域に献できる職員を目指してこれからも、がんばって行きたいと思います。

所属部署＝一の宮中央支所金融課金融係

大塚（おおつか）　優里香（ゆりか）

★趣味＝音楽鑑賞
★一言コメント＝農協に入って1年が経ちました。笑顔でお客様対応するように心がけています。

JA阿蘇イラスト違い探し「梅雨（つゆ）」

（出題：イラストレーター みやたみゆき）

左右2枚のイラストには、違っているところが5か所あります。探してみてください！

※答えは15ページにあります。

＝JA阿蘇職員異動のお知らせ（平成30年4月16日発令）＝	
岩下　悟	（新辞令）営農部南部営農センター農産課主任兼地域農業再生協議会担当
	（旧辞令）営農部南部営農センター農産課農産係

理事会・監事会報告

■平成30年度第1回理事会

日時　平成30年4月23日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1.開会
2.組合長挨拶
3.協議事項
委員会報告(総務専門委員会、経済専門委員会)
3月末実績報告について
平成29年度決算監査期中改善指示書(資産の自己査定等)について
　1)定款の変更について(案)
　2)信用事業規程および信用事業方法書の改正について(案)
　3)農地利用集積円滑化事業規程の変更について(案)
　4)監事監査規程の全部改定について(案)
　5)支所管理規程の変更について(案)
　6)阿蘇農業協同組合年金規約の改正について(案)
　7)JAバンク基本方針の変更について(案)
　8)平成30年度固定資産取得計画(案)について
　9)JA三大疾病保障付住宅ローンの取扱開始について(案)
　10)平成30年度余裕金運用計画について(案)
　11)平成29年度導入家畜等棚卸監査回答書について(案)
　12)貸出金について
　13)利益相反取引について
　14)平成30年度家畜導入計画及び貸付利率(案)について
　15)平成30年産米出荷契約金設定について(案)
　16)西原給油所セルフ改修工事固定資産取得委員会委員の
　　選任について(案)
報告事項
　1)成30年度監事監査計画書について
　2)平成30年度全国監査機構監査計画概要について(報告)
　3)内部監査実施状況報告書(平成30年1月～3月)について
　4)自主検査結果報告(平成29年10月～12月)について
　5)全国監査機構決算期末監査計画について
　6)平成29年度余裕金運用状況(平成30年2月末)について
　7)ATM取引金額実績(平成29年4月～30年2月末累計)
　8)平成30年ゴールデンウィークのATM稼働について
　9)農業経営維持緊急特別対策資金実績報告について
　10)平成29年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの
　　進捗状況(30年3月末)報告について
　11)平成29年度不祥事未然防止の為の行動計画
　　部署別進捗管理個票(30年3月末現在)報告について
　12)「反社会的勢力等への対応に関する規則」の改正及び
　　「特定事業者作成書面(リスク評価書)」の制定について
　13)平成29年度固定資産取得実績報告について(500～1,000万円)
　14)平成30年度購買事業推進ポイント管理について
4.閉会

■平成30年度第2回理事会

日時　平成30年4月27日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1.開会
2.組合長挨拶
3.協議事項
委員会報告(債権管理委員会)
　1)平成29年度資産査定結果について
　　貸出付議案件綴にて
　2)第17回通常総代会提出議案について
　　(第17回通常総代会資料にて)4ページ
　3)平成29年度事業報告及び関連事項について
　　7ページ～48ページ
　4)平成30年度事業計画及び関連事項について
　　49ページ～109ページ
　5)税効果会計における事業損益3ヵ年計画について
4.閉会

■平成30年度第3回理事会

日時　平成30年5月31日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1.開会
2.組合長挨拶
3.協議事項
4月末実績報告について
　1)平成29年度最終決算について
　2)役員の補欠選任について
　3)総代会開催に伴う総代に対する招集通知等について
　　①招集通知
　　②総会参考書類
　4)貸出金について
　5)臨時職員就業規則の改正について(案)
　6)パートタイマー就業規則の改正について(案)
　7)平成31年度大卒(新規学校卒業)
　　JA阿蘇職員募集要領について(案)
報告事項
　1)阿蘇農協座談会日程等について
　2)県域ローンセンター媒介業務実績報告(平成30年3月末)
　3)事務ミス等の発生状況について(平成29年度下期報告)
　4)JA阿蘇活動総合3ヵ年計画の平成29年度末進捗状況について
4.閉会

●平成30年度第1回監事会

日時　平成30年4月12日午後1時30分
場所　本所2階第1会議室
1.開会
2.挨拶
3.議題
　1)平成29年度決算棚卸監事監査報告(案)について
　2)平成29年度決算監事監査について
　3)監事監査規程の全部改定(案)について
　4)監事会規程の全部改定(案)について
報告事項
　①常勤監事業務報告について
　②常勤会議等報告について
　③不祥事再発防止策内部監査実施状況報告書(1月～3月)
　④全国監査機構監査概要について
　⑤行事予定について
4.閉会

●平成30年度第2回監事会

日時　平成30年5月18日午後1時30分
場所　本所2階第2会議室
1.開会
2.挨拶
3.議題
　1)平成29年度決算監事監査とりまとめについて
　2)平成29年度導入家畜等棚卸監事監査回答書について
報告事項
　①JA阿蘇第17回通常総代会事前説明会日程について
4.閉会

答え　①女性の髪型　②左の紫陽花の葉　③犬の手　④カタツムリの殻　⑤女の子の傘の柄

厚生連ニュース

歯周病に気をつけましょう

お口の健康は大切です！

6月は歯の衛生週間です。日本は、世界一の長寿国ですが、歯の寿命は50～60年程です。また、30～34歳の20%、40～44歳の25%に歯周病の症状が認められており、これ以降、加齢と共に加速的に歯周病が進行していきます。日ごろから歯磨きなどのケアをしっかり行い、80歳で20本以上の自分の歯を保つお口の健康を目指しましょう。(8020運動)

ご存知ですか？？歯周病が及ぼす影響

糖尿病	糖尿病患者さんの多くに重度の歯周病が見られます。そのため、歯周病が合併症の1つとして捉えられています。また、歯周病の炎症が、血糖値を低下させるインスリンの効きを阻害するため、歯周病患者は血糖コントロールが困難になります。
狭心症・心筋梗塞・脳梗塞	歯周病原因菌やその毒素などが、血流に乗って冠状動脈に達すると、アテローム形成が加速化し、その結果、心血管の病気が発症しやすくなります。歯周病に罹患していると、例えば脳梗塞では、その発症リスクは 2.8 倍になります。
骨粗しょう症	骨粗しょう症の人が歯周病に罹患すると、歯槽骨が急速に吸収されることで症状が進行しやすくなります。
内臓型肥満	内臓型肥満による脂肪組織から分泌される物質が、歯周病を引き起こす原因になっている可能性が指摘されています。
妊娠	歯周病の炎症で出てくる物質が胎盤に影響し、早産・低体重児出産のリスクが約4倍高まります。

「意識磨き」で歯周病予防

1. 力を入れすぎず、小刻みにブラシを動かす。
2. 磨く順番を決めて、1本1本全ての面を磨く。
3. 磨くときは歯の面にあわせて歯ブラシの角度を変える。
4. 歯間掃除具(歯間ブラシやデンタルフロス)を上手に利用する。使用法がわからない場合は歯科医師や歯科衛生士に相談を。

JA熊本厚生連健康管理センター　所長　粟津　雄一郎
TEL096（328）1256　FAX096（328）1229